

神奈川県における旧石器時代の遺構（その3）

－B 1 層下部～L 2 層－

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

本プロジェクトでは、2001年度より、神奈川県内の旧石器時代遺跡において報告されている遺構の集成を実施している。これまでに(その1)として漸移層～L 1 H層、(その2)としてB 1 層上部に該当する資料を扱った。今年度はB 1 層下部を主な出土層位とする遺物群に伴って検出された遺構を対象としている。例年通り、各報告書において礫群・炭化物集中・炉址・配石・住居状遺構・土坑・ピット・デボなどの事例を対象とし、今回確認できた遺構は礫群・炉址・配石・土坑・石核原材集積・炭化物集中(大型炭化材集中部を含む)の6種類であった。以下、遺構ごとにその様相を述べる。

B 1 層下部検出の遺構について

a) 礫 群 (第1・2図)

今回確認された礫群は40遺跡234事例にのほり⁽¹⁾、対象とした遺構の中では、最も多く検出された遺構である。報告書に基数の記載があるものに関して、検出された礫群が1基のみである遺跡は7遺跡ほどであり、その他の遺跡ではおおむね複数基の礫群が発見されている。構成礫の数量については、月見野上野遺跡第1地点第5号礫群が300点と最も多い点数である。ちなみに最も少ない点数では2点で構成されている事例も報告されており⁽²⁾、平均点数は33.8点となる。数量に関する情報が掲載されている事例に限ると、接合していない状態での点数で、20点未満が93例、20～40点未満が52例、40～60点未満が21例、60～80点未満が13例、80～100点未満が4例、100点以上が11例となり、20点未満の例が最も多く5割を占める。分布範囲については、長軸は0.2～6.7m、短軸は0.1～5.0mが大半を占め、長軸・短軸がともに1m未満の例は22例中で42例存在した。また、ほぼ8割の例が長軸1.0m以上の規模を持つ例であった。使用された岩石種については、相模川水系にて採取可能と考えられる岩石が利用されている例が多い。構成礫の属性では、赤化の認められる資料がおおむね大半を占めている。

b) 炉 址 (第3図)

本遺構は2遺跡4事例を数え、すべて宮ヶ瀬遺跡群の事例である。上原遺跡P 1号炉址以外は礫を伴った炉址とされる。焼土範囲については、上原遺跡P 3号炉址が0.3×0.25mであるが、その他は約0.7×0.6mの範囲とされる。すべての例で下部遺構は確認されていない。構成礫については、完形礫は少なく、赤化礫については、上原遺跡P 3号炉址は少なめであるが、他の2例では多数認められている。すべての例で炭化物の分布が認められている。また、中原遺跡P 1号炉址以外では、複数の石器を伴った例はない。

c) 配 石 (第4図1・2)

本遺構は4遺跡18事例を数え、宮ヶ瀬遺跡群と大和市長堀南遺跡の事例である⁽³⁾。宮ヶ瀬遺跡群の例はB 1 層中～下部で確認され、おおむね1kg以上の礫・石器を配石として認定している。長堀南遺跡の例はL 2 層上面での確認となっており、基準をうかがい知ることはできない⁽⁴⁾。また、両遺跡ともに、下部遺構の存

在が確認されている例はない。使用された岩石種については、凝灰岩系あるいは安山岩系が多く、礫群で見られる岩石種に類似すると考えられる。構成礫については、完形礫は少ないが、赤化礫は、比較的多く認められる。数については1点・2点・3点・5点から成る例が存在し、2点が9例と最も多い例となる。石器との伴関係については、中原遺跡ではすべて石器集中と重なる位置に分布しており、上原遺跡では配石構成資料に叩石や台石が含まれる例が存在する。

d) 土 坑 (第4図3)

本遺構は葛原滝谷遺跡P1号土坑のみである。第2大型炭化材集中部の下部に存在し、B1層下部～L2層上部を確認面とする。覆土中には炭化物は存在するが、石器は含まれていない。推定される平面形態および規模は、楕円形を呈し、長軸97cm、短軸77cm、深さ25cmと推定されている⁽⁵⁾。

e) ピット (第6図)

本遺構は用田鳥居前遺跡の1例のみである。大型炭化材第2集中部の下部に存在し、B1層下部を確認面とする。覆土の1層上面に大型炭化材が位置しており、覆土中には炭化物は存在するが、石器は含まれていない。平面形態はほぼ楕円形を呈し、規模は直径28cm、深さ42cmと推定されている。

f) 石核原材集積 (第5図1)

本遺構は宮ヶ瀬遺跡群サザランケ遺跡の1例のみであり、B1層中～下部において検出されている2点の石器からなる。原石を粗割りした同一母岩とされる剥片と大形の使用痕ある剥片からなり、北東2mに第3ブロックが設定されている。掘り込みを持つ遺構は伴っていないが、「石核原材として保管した「デポ遺構」の可能性はある」とされる。

g) 炭化物集中 (第5図2～4、第6図)

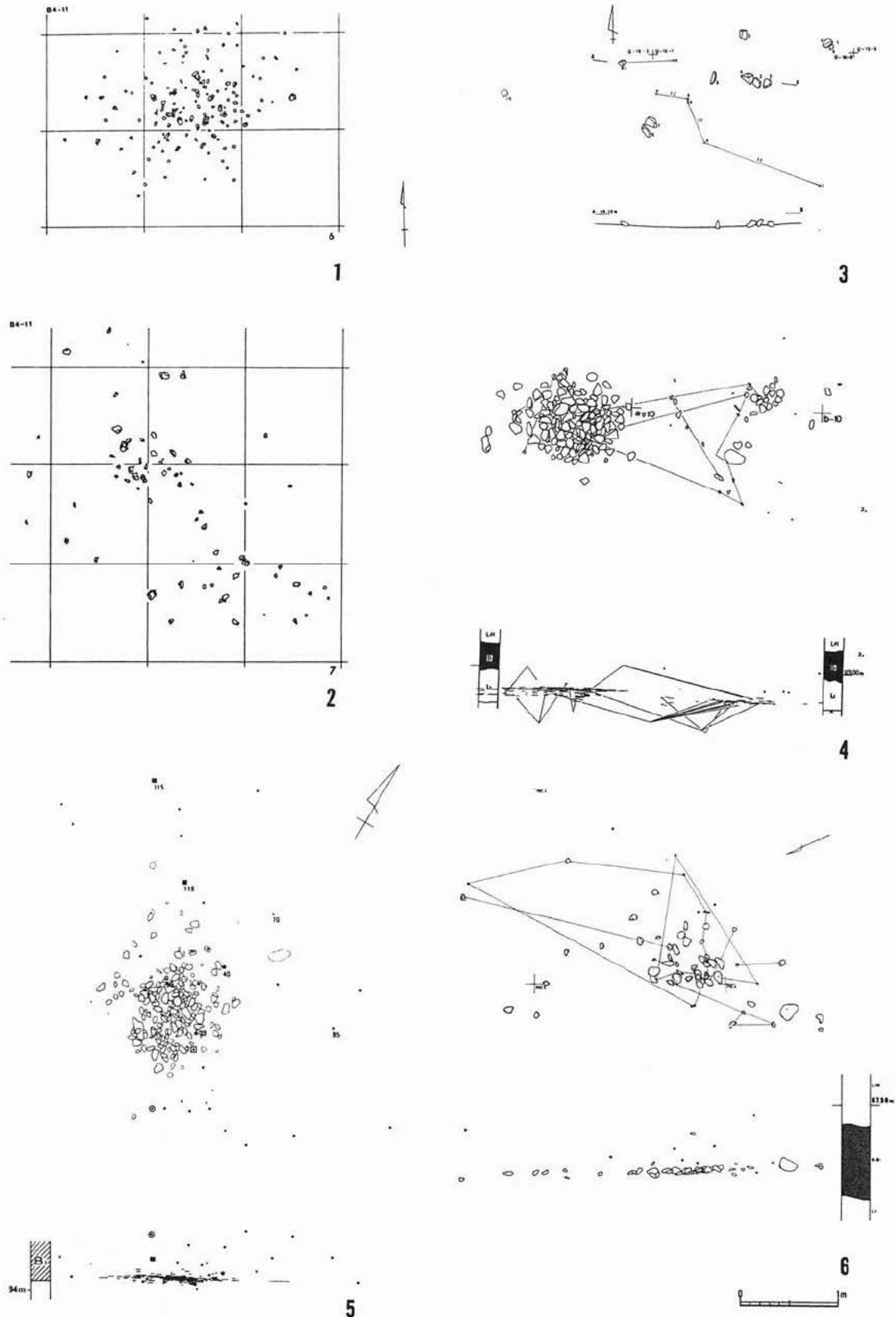
本遺構は6遺跡24事例を数え、この中には用田鳥居前遺跡と葛原滝谷遺跡の大型炭化材集中部も含まれている。平面的な広がりについては、おおむね長軸・短軸ともに1～2mほどである。用田鳥居前遺跡の第3石器集中地点において2箇所の炭化物集中が設定されている以外は、付近で石器が出土している例はみあたらない。本遺構では、大型炭化物集中部の存在が特筆されるが、用田鳥居前遺跡では、5箇所の集中部と6667点の炭化物粒が認められている。特に第2集中部については、板状の材が含まれており、下部には前述したピットが残されていた。葛原滝谷遺跡では、3箇所の大型炭化材集中部と多数の炭化物粒が認められている。特に第2大型炭化材集中部については、下部でP1号土坑が検出されている。

上述したように、礫群以外の遺構が報告されているが、炉址や配石などの多くは宮ヶ瀬遺跡群の事例、土坑、ピットや大型炭化材集中は用田バイパス関連遺跡群の事例であり、遺跡が限定されているのが実情である。さらに用田鳥居前遺跡の出土石器は吉岡遺跡群B区出土石器との遺跡間接合が確認されており、そうした遺跡間の連なりも考慮していく必要があろう。

(吉田政行)

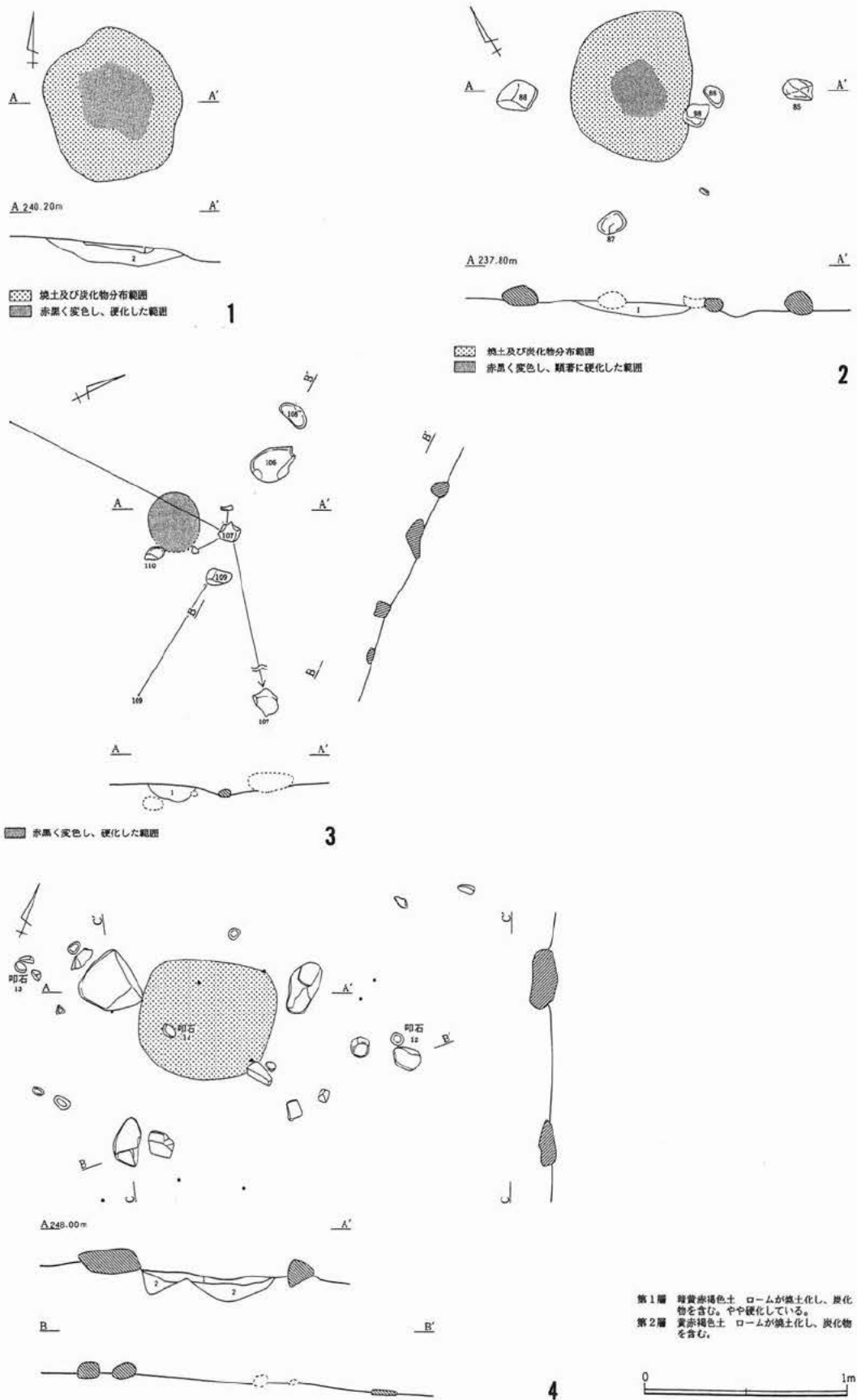
註

- (1) ここで数に含まれる「遺跡」とは、報告書において「～遺跡」とされるものを対象とし、「～遺跡第○地点」については同一遺跡として扱った。ただし、月見野遺跡群は地点に相当する枠が「遺跡」となっており、「遺跡」のとりえ方には問題が残されている。
- (2) この「最も少ない点数」については礫群を設定する際の基準にもよるため、参考程度としたい。
- (3) 本遺構の報告については、報告者によるばらつきが大きい。例えば、「おおむね1kg以上の礫・石器によって構成される。」といった設定基準を援用した場合、他の遺跡でも抽出できる可能性が高いと考える。
- (4) ただし、私信では「拳大程度よりも大きくて、被熱の度合いが弱い礫・石器が散在している場合に配石とした。」とのお答えを麻生順司氏よりいただいた。
- (5) 「約1/2のデータは失われてしまう」調査方法であったとされるが、掘り込みを持つ遺構が少ない旧石器時代遺跡の調査においては、当該報告者のような積極的かつ慎重な姿勢は重要であろう。

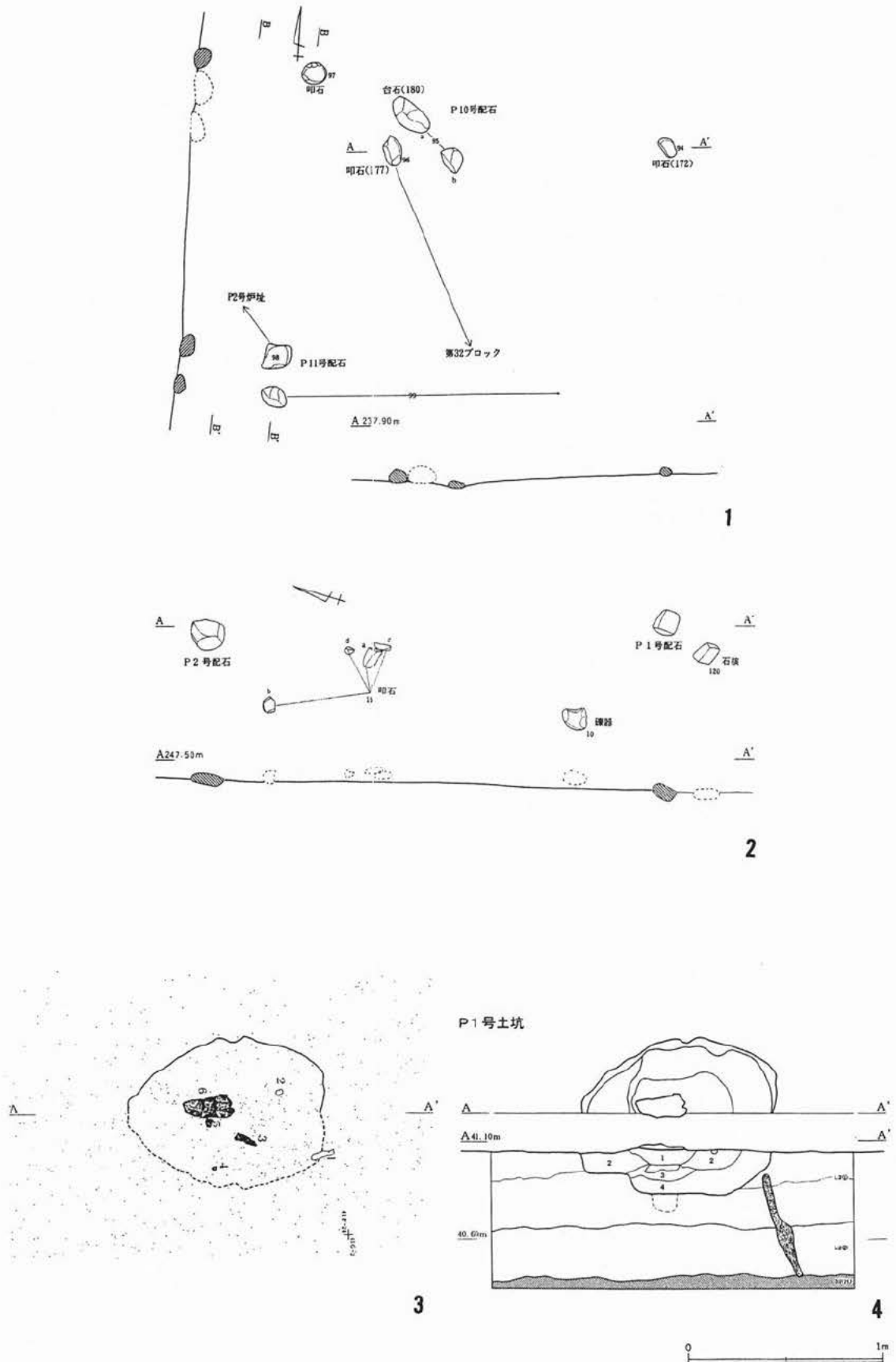


第1図 礫群〔1：橋本Ⅲ 6号礫群、2：同 7号礫群、3：田名稻荷山Ⅲ、4：古淵B 2 b 14号礫群、5：下森鹿島Ⅲ 6号礫群、6：中村 5号礫群〕

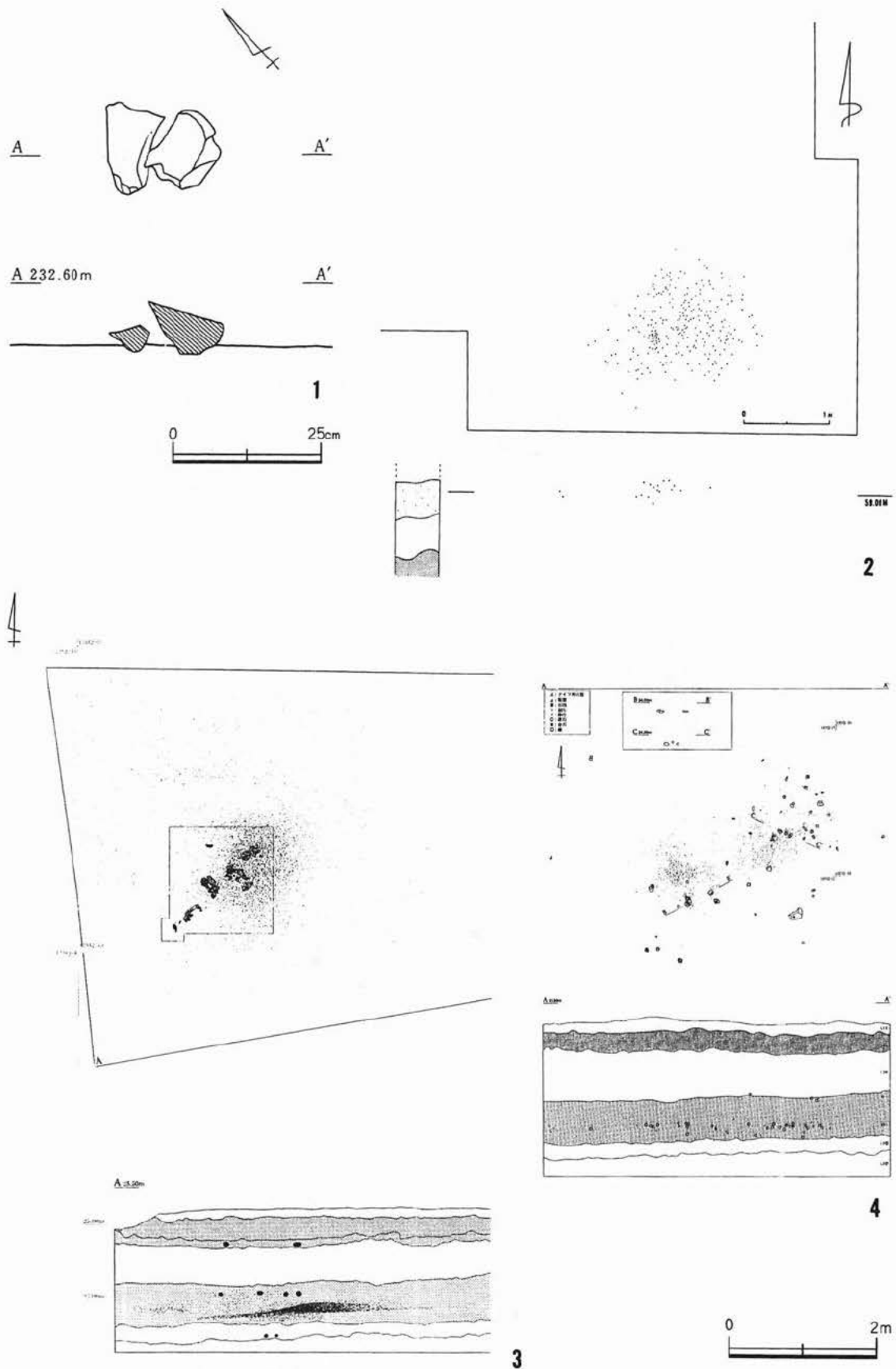
—4—



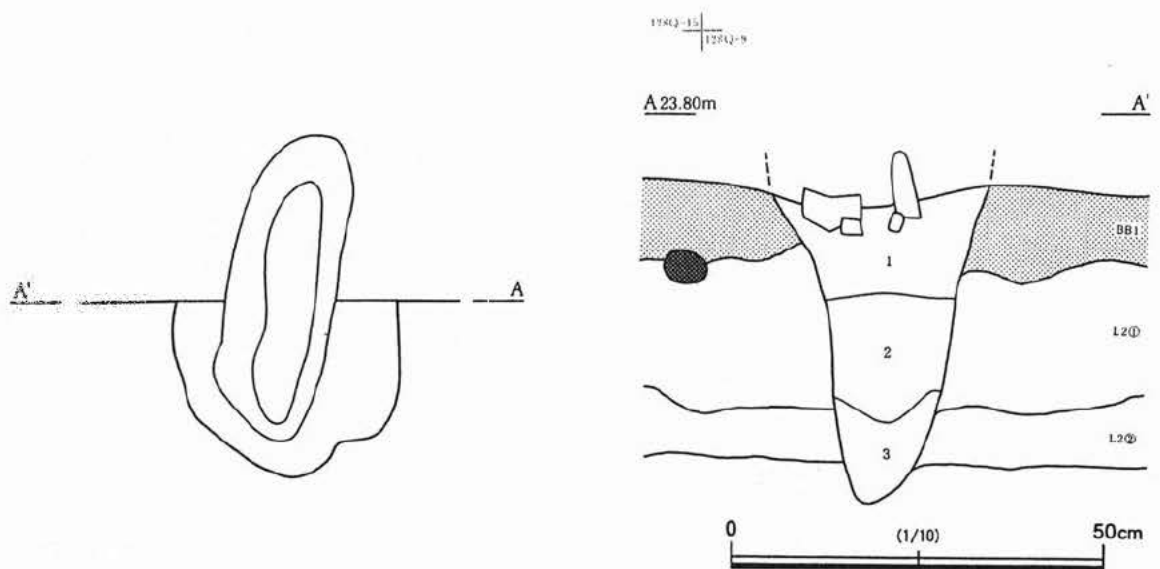
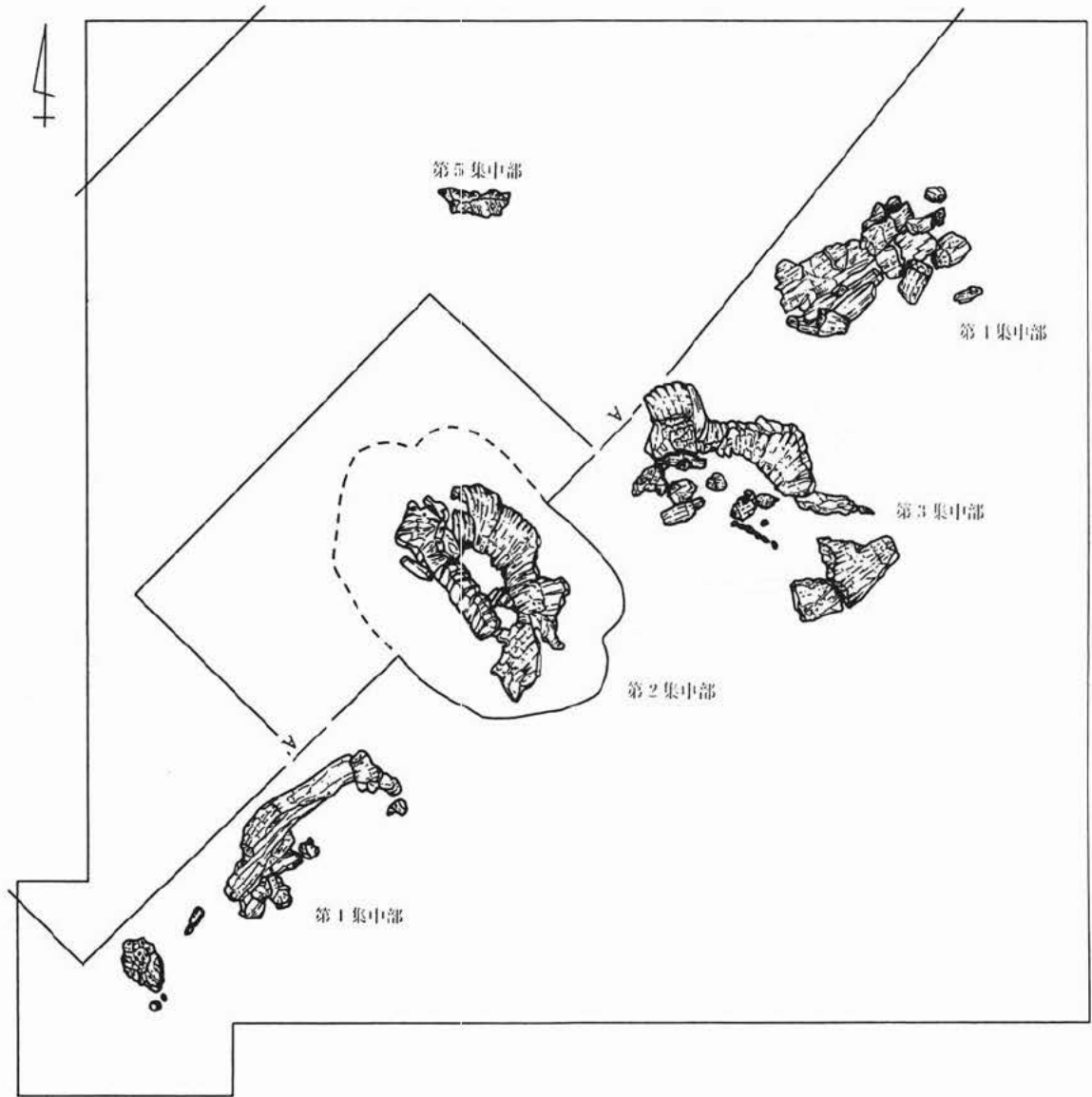
第3図 炉址〔1：宮ヶ瀬上原VP1号炉址、2：同P2号炉址、3：同P3号炉址、4：宮ヶ瀬中原VP1号炉址〕



第4図 配石(1:宮ヶ瀬上原VP 10・11号配石、2:同中原VP 1・2号配石)・土坑(3・4:葛原滝谷VP 1号土坑)



第5図 デポ（石核原材）〔1：宮ヶ瀬サザランケV〕・炭化物集中1〔2：草柳一丁目B1中位、3・4：用田島居前IV〕



第6図 炭化物集中2〔用田鳥居前Ⅳ大型炭化材出土状況〕

第1表 礫群

遺跡 No.	遺跡名	確認 層位	文化 層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合係数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
55	橋本	BB1 -L2	Ⅲ	礫群3	1.90	1.50	77	—	赤化：30、破損：45	砂岩59、珪岩15、他3	—
55	橋本	BB1 -L2	Ⅲ	礫群4	4.10	3.20	105	—	赤化：65、破損：85	砂岩85、珪岩18、他2	—
55	橋本	BB1 -L2	Ⅲ	礫群5	0.80	0.40	25	—	赤化：8、破損：12	砂岩23、珪岩2	—
55	橋本	BB1 -L2	Ⅲ	礫群6	2.50	1.90	138	—	赤化：28、破損：78	砂岩126、珪岩11、他1	—
55	橋本	BB1 -L2	Ⅲ	礫群7	3.70	2.40	70	—	赤化：14、破損：46	砂岩53、珪岩11、他6	—
55	橋本	BB1 -L2	Ⅲ	礫群8	1.90	1.40	79	—	赤化：40、破損：21	砂岩71、珪岩3、閃緑岩1、他4	—
55	橋本	BB1 -L2	Ⅲ	礫群9	0.80	0.60	28	—	赤化：12、破損：22	砂岩11、珪岩6、閃緑岩11	—
55	橋本	BB1 -L2	Ⅲ	礫群10	2.10	1.30	80	—	赤化：11、破損：25	砂岩77、珪岩3	—
55	橋本	BB1 -L2	Ⅲ	礫群11	3.90	3.00	67	—	赤化：11、破損：54	砂岩60、珪岩6、閃緑岩1	—
55	橋本	BB1 -L2	Ⅲ	礫群12	1.20	0.90	35	—	赤化：11、破損：27	砂岩28、珪岩1、閃緑岩6	—
57	下九沢山谷	BB1U -L	Ⅱ	礫群	—	—	—	散漫	—	—	—
57	下九沢山谷	L2	Ⅲ	礫群	—	—	—	密集	—	—	—
61	田名稲荷山 (B地区)	BB1L -L2	Ⅲ	礫群	3.00	1.00	11	散漫	赤化：10、スス：4、ヒビ：6、火撥：2、破損：4	閃緑岩2、輝緑岩1、細粒凝灰岩1、硬砂岩3、火山礫凝灰岩1、玄武岩1、粗粒凝灰岩2	剥片2、ナイフ2
68	中村（C地区）	L2U	V	1号礫群	3.30	2.00	4	散漫	赤化：4、ヒビ：有	凝灰岩、硬砂岩	—
68	中村（C地区）	L2U	V	2号礫群	1.50	1.50	15	集中	赤化：15、ヒビ：有、スス：有	凝灰岩、硬砂岩、安山岩	7ブロック重複
68	中村（C地区）	BB1L	V	3号礫群	4.70	3.50	31	集中	赤化：31、スス：有、タール：有	閃緑岩、凝灰岩、粘板岩、硬砂岩、チャート	7ブロック重複
68	中村（C地区）	BB1L	V	4号礫群	5.00	3.30	13	散漫	赤化：13、ヒビ：有、破損：13	硬砂岩、チャート	15ブロック重複
68	中村（C地区）	BB1M -L2U	V	5号礫群	4.10	2.30	34	集中	赤化：34、ヒビ：有、破損：34	凝灰岩、凝灰角礫岩、硬砂岩、粘板岩	15・19ブロック一部重複
68	中村（C地区）	L2U	V	6号礫群	0.90	0.50	13	集中	赤化：13、ヒビ：有、スス：有、タール：有	粘板岩、玄武岩、硬砂岩、凝灰角礫岩	—
68	中村（C地区）	BB1L -L2U	V	7号礫群	6.20	3.70	44	散漫	赤化：多、ヒビ：多、破損：多	粘板岩、玄武岩、硬砂岩、凝灰角礫岩、閃緑岩	20～22ブロック重複
68	中村 (D～F地区)	L1H -BB1	V	1号礫群	4.00	3.00	7	散漫	赤化：多	粘板岩1、硬砂岩6	ナイフ形石器、尖頭器、削器、ピエス、彫器、磨石、RF、UF、石刃、石核
68	中村 (D～F地区)	L1HL	V	2号礫群	—	—	9	散漫	スス：2、破損：7	粘板岩6、チャート2、硬砂岩1	8ブロック重複
68	中村 (D～F地区)	BB1L	V	3号礫群	5.50	4.00	36	集中	赤化：有、スス：有、タール：有、ヒビ：有、破損：34	チャート16、粘板岩6、硬砂岩13、凝灰角礫岩1	9ブロック重複
68	中村 (D～F地区)	BB1L～ L2	V	4号礫群	3.50	2.30	43	集中	赤化：43、破損：43	硬砂岩38、礫岩3、凝灰角礫岩2	12ブロック重複
68	中村 (D～F地区)	BB1L	V	5号礫群	2.00	1.00	19	集中	赤化：有、スス：有、破損：13	硬砂岩11、閃緑岩5、粘板岩2、花崗岩1	15ブロック一部重複
68	中村 (D～F地区)	BB1L	V	6号礫群	2.50	1.80	24	集中	赤化：有、スス：有、破損：17	硬砂岩12、凝灰角礫岩2、火山礫凝灰岩2、粘板岩3、閃緑岩2、粘板岩3、凝灰岩、チャート1	15ブロック重複
68	中村 (D～F地区)	BB1L	V	7号礫群	4.00	3.00	62	集中	赤化：多、スス：多、タール：多	硬砂岩21、凝灰岩19、凝灰角礫岩14、粘板岩6、	16ブロック重複
68	中村 (D～F地区)	BB1L	V	8号礫群	2.00	2.00	51	集中	赤化：有、スス：有、タール：有	チャート16、硬砂岩19、凝灰角礫岩11、粘板岩3、安山岩1、玄武岩1	17ブロック重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No1	4.30	4.10	39 (11)	散漫	赤化：7、スス：5、ヒビ：7、火撥：2、完形：4・破損：35	細粒凝灰岩1、粗粒凝灰岩3、火山礫凝灰岩5、硬砂岩2	No1ブロックと重複 No3礫群と接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No2	3.00	2.50	30 (12)	集中	赤化：9、スス：4、ヒビ：6、火撥：5、完形：5・破損：25	細粒凝灰岩1、粗粒凝灰岩1、火山礫凝灰岩1、凝灰角礫岩1、輝緑岩1、硬砂岩7	No3ブロックと重複 No3礫群と接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No3	3.60	3.40	50 (12)	集中	赤化：9、スス：3、ヒビ：9、火撥：4、完形：6・破損：44	細粒凝灰岩3、凝灰角礫岩1、火山礫凝灰岩4、輝緑岩1、硬砂岩2、不明1	No4ブロックと重複 No1・2礫群、No6 ブロック、N12-24 区と接合

旧石器時代研究プロジェクトチーム

遺跡 No	遺跡名	確認 層位	文化 層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共存遺物等)
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na 4	2.10	1.60	21 (5)	集中	赤化：3、スス：3、ヒビ：3、完形：1・破損：20	細粒凝灰岩2、粗粒凝灰岩1、凝灰角礫岩1、硬砂岩1	Na6ブロックと重複 Na6礫群、○13-17区と接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na 5	2.60	1.80	20 (12)	集中	赤化：11、スス：5、ヒビ：7、火擦：3、完形：7・破損：13	粗粒凝灰岩3、凝灰角礫岩1、火山礫凝灰岩1、粘板岩1、硬砂岩6	Na7ブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na 6	3.10	2.60	22 (14)	集中	赤化：13、スス：5、ヒビ：8、火擦：3、完形：8・破損：14	細粒凝灰岩1、粗粒凝灰岩3、凝灰角礫岩2、火山礫凝灰岩1、硬砂岩3、チャート1、不明1	Na8ブロックと重複 Na4礫群と接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na 7	2.80	1.90	8 (3)	散漫	赤化：2、スス：2、ヒビ：2、火擦：1、完形：1・破損：7	粗粒凝灰岩1、玄武岩1、硬砂岩1	Na10ブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na 8	2.50	1.10	14 (6)	集中	赤化：5、スス：2、ヒビ：4、完形：5・破損：9	細粒凝灰岩1、粗粒凝灰岩1、火山礫凝灰岩1、硬砂岩3	Na18ブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na 9	3.50	2.40	38 (14)	集中	赤化：14、スス：5、ヒビ：5、火擦：4、完形：5・破損：33	細粒凝灰岩1、粗粒凝灰岩2、火山礫凝灰岩1、安山岩3、硬砂岩7	Na16aブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na10	3.00	1.60	16 (11)	集中	赤化：10、スス：8、ヒビ：4、火擦：2、完形：5・破損：11	細粒凝灰岩2、粗粒凝灰岩1、凝灰角礫岩1、火山礫凝灰岩1、閃緑岩2、硬砂岩3	Na17ブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na11	6.70	3.50	37 (29)	集中	赤化：26、スス：20、ヒビ：17、火擦：5、完形：20・破損：17	細粒凝灰岩5、粗粒凝灰岩6、火山礫凝灰岩4、閃緑岩1、玄武岩1、硬砂岩12	Na14a・bブロックと重複 Na35礫群と接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na12	2.20	1.90	23 (12)	集中	赤化：12、スス：7、ヒビ：2、火擦：4、完形：3・破損：20	細粒凝灰岩2、粗粒凝灰岩5、火山礫凝灰岩3、硬砂岩2	Na13ブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na13	2.20	0.60	10 (2)	集中	赤化：2、ヒビ：2、破損：10	火山礫凝灰岩2	Na19ブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na14	4.40	2.00	51 (9)	集中	赤化：7、スス：4、ヒビ：5、火擦：4、完形：2・破損：49	粗粒凝灰岩1、安山岩1、玄武岩1、硬砂岩4、不明2	Na26ブロックと重複 Na15・21礫群と接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na15	2.40	2.10	15 (10)	散漫	赤化：9、スス：3、ヒビ：2、完形：3・破損：12	細粒凝灰岩5、粗粒凝灰岩3、輝緑岩1、玄武岩1	Na28bブロックと重複 Na14礫群、Na27ブロックと接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na16	3.80	2.70	21 (12)	集中	赤化：12、スス：10、ヒビ：10、火擦：4、完形：6・破損：15	細粒凝灰岩2、粗粒凝灰岩4、火山礫凝灰岩4、硬砂岩2	Na31ブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na17	1.20	0.60	3 (3)	散漫	赤化：3、スス：2、ヒビ：1、火擦：2、完形：1・破損：2	凝灰角礫岩1、硬砂岩2	Na30ブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na18	2.40	0.20	4 (4)	散漫	赤化：4、スス：3、ヒビ：3、火擦：2、完形：2・破損：2	粗粒凝灰岩3、硬砂岩1	Na55ブロックと重複 Na16礫群と接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na19	3.40	2.70	34 (11)	集中	赤化：10、スス：7、ヒビ：6、火擦：3、完形：1・破損：32	細粒凝灰岩3、粗粒凝灰岩4、凝灰角礫岩1、硬砂岩2、不明1	Na32ブロックと重複 Na20・33礫群、Na32ブロックと接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na20	3.40	2.20	28 (9)	集中	赤化：8、スス：3、ヒビ：6、火擦：6、完形：1・破損：27	細粒凝灰岩2、粗粒凝灰岩3、凝灰角礫岩1、粘板岩1、硬砂岩1、不明1	Na35bブロックと重複 Na21・23・33礫群、Na33・38・35bブロックと接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na21	2.00	1.20	8 (5)	散漫	赤化：4、スス：3、ヒビ：4、火擦：3、完形：2・破損：6	粗粒凝灰岩？1、硬砂岩3、不明1	Na37ブロックと重複 Na14礫群、Na29ブロックと接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na22	2.90	1.80	14 (13)	集中	赤化：13、スス：11、ヒビ：5、火擦：6、完形：8・破損：6	細粒凝灰岩4、粗粒凝灰岩2、凝灰角礫岩1、火山礫凝灰岩1、硬砂岩5	Na38ブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na23	2.70	2.40	27 (9)	集中	赤化：9、スス：7、ヒビ：3、火擦：6、完形：2・破損：25	細粒凝灰岩1、粗粒凝灰岩3、凝灰角礫岩1、安山岩1、硬砂岩3	Na40bブロックと重複 Na24・25礫群と接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群Na24	1.70	1.00	8 (7)	集中	赤化：6、スス：3、ヒビ：3、火擦：3、完形：4・破損：4	細粒凝灰岩2、粗粒凝灰岩2、凝灰角礫岩2、硬砂岩1	Na40dブロックと重複 Na23・25礫群と接合

神奈川県における旧石器時代の遺構（その3）

遺跡 No.	遺跡名	確認 層位	文化 層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No25	4.00	2.80	21 (15)	散漫	赤化：15、スス：5、ヒビ：10、火撥：5、完形：6・破損：15	細粒凝灰岩4、粗粒凝灰岩2、火山礫凝灰岩2、輝緑岩1、安山岩1、玄武岩1、硬砂岩3、不明1	Na40 cブロックと重複 R20-15区と接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No26	1.00	0.50	6 (4)	集中	赤化：4、スス：2、ヒビ：2、火撥：1、破損：6	安山岩1、玄武岩2、硬砂岩1	Na43ブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No27	3.20	2.60	15 (6)	集中	赤化：6、スス：2、ヒビ：2、火撥：4、完形：1・破損：14	細粒凝灰岩1、粗粒凝灰岩2、凝灰角礫岩1、玄武岩1、硬砂岩1	Na43ブロックと重複 Na26礫群と接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No28	3.10	3.00	25 (14)	集中	赤化：12、スス：6、ヒビ：6、火撥：4、完形：7・破損：18	細粒凝灰岩1、粗粒凝灰岩1、凝灰角礫岩1、火山礫凝灰岩2、玄武岩2、硬砂岩7	Na45ブロックと重複 Na44ブロックと接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No29	3.30	2.50	66 (13)	集中	赤化：13、スス：6、ヒビ：9、火撥：7、完形：1・破損：65	細粒凝灰岩3、粗粒凝灰岩3、凝灰角礫岩1、火山礫凝灰岩1、安山岩1、硬砂岩1	Na46ブロックと重複 Na25・26・27・30・31・34礫群、Na32・42・43ブロックと接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No30	2.60	1.20	11 (5)	散漫	赤化：5、スス：4、ヒビ：4、火撥：2、完形：1・破損：10	細粒凝灰岩1、粗粒凝灰岩1、火山礫凝灰岩1、安山岩1、硬砂岩1	Na47ブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No31	2.90	1.80	20 (7)	集中	赤化：7、スス：4、ヒビ：6、火撥：3、完形：2・破損：18	細粒凝灰岩1、粗粒凝灰岩1、凝灰角礫岩3、硬砂岩2	Na48ブロックと重複 Na32礫群、Na48ブロックと接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No32	3.10	2.30	13 (5)	散漫	赤化：5、スス：3、ヒビ：4、火撥：2、破損：13	細粒凝灰岩1、粗粒凝灰岩2、硬砂岩2	Na49ブロックと重複 Na31礫群と接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No33	2.60	1.20	12 (8)	散漫	赤化：7、スス：4、ヒビ：4、火撥：3、完形：4・破損：8	細粒凝灰岩2、粗粒凝灰岩1、硬砂岩1、不明1	Na24ブロックと重複 Na36礫群と接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No34	4.10	2.70	25 (12)	散漫	赤化：12、スス：9、ヒビ：5、火撥：7、完形：5・破損：20	細粒凝灰岩1、粗粒凝灰岩2、火山礫凝灰岩1、安山岩1、硬砂岩4	Na44ブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No35	3.40	1.50	20 (16)	集中	赤化：16、スス：14、ヒビ：14、火撥：2、完形：10・破損：10	粗粒凝灰岩4、凝灰角礫岩3、火山礫凝灰岩4、硬砂岩5	Na21ブロックと重複 Na11礫群と接合
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No36	2.50	1.30	21 (18)	集中	赤化：17、スス：12、ヒビ：10、火撥：3、完形：15・破損：6	細粒凝灰岩5、粗粒凝灰岩5、凝灰角礫岩1、火山礫凝灰岩2、硬砂岩5	Na23ブロックと重複
70	栗原中丸	BB1M	V	礫群No37	2.80	1.70	12 (5)	集中	赤化：4、スス：2、火撥：1、完形：2・破損：9	細粒凝灰岩1、粗粒凝灰岩1、安山岩1、硬砂岩1	Na20ブロックと重複
76	下鶴間甲1号	BB1-L2U	IV	1号礫群	2.20	1.20	35	散漫	赤化：32、完形：5・破損：24・ヒビ：6	砂岩12、凝灰岩10、ホルンフェルス4、泥岩4、安山岩3、不明2	—
76	下鶴間甲1号	BB1-L2U	IV	2号礫群	2.70	1.70	21	散漫	赤化：16、完形：8・破損：10・ヒビ：3	凝灰岩9、砂岩7、礫岩2、泥岩1、安山岩1、頁岩1	—
77	月見野IVC	BB1	—	礫群	—	—	—	—	—	—	B1中層、下層から2基検出
81	月見野上野第一地点	BB1LL	VI	第1号礫群	2.00	1.30	46	集中	—	—	—
81	月見野上野第一地点	BB1LL	VI	第2号礫群	0.60	0.60	100	密集	—	—	—
81	月見野上野第一地点	BB1LL	VI	第3号礫群	0.60	0.40	44	散漫	—	—	—
81	月見野上野第一地点	BB1LL	VI	第4号礫群	0.80	0.80	230	密集	—	—	第3ブロック重複
81	月見野上野第一地点	BB1LL	VI	第5号礫群	1.70	1.30	300	密集	—	—	第4ブロック重複
82	月見野上野第三地点	BB1L	III	1号礫群	3.00	2.20	57	集中	赤化：有、ヒビ：有、スス：有	凝灰岩、砂岩、玄武岩、ホルンフェルス	総重量12.46kg
85	長堀北	BB1L	VI	1号礫群	1.30	0.65	—	集中	—	—	—
85	長堀北	BB1L	VI	2号礫群	1.00	0.75	—	密集	—	—	—
85	長堀北	BB1L	VI	3号礫群	3.00	2.00	—	散漫	—	—	—
85	長堀北	BB1L	VI	4号礫群	1.20	0.70	—	密集	—	—	—
85	長堀北	BB1L	VI	5号礫群	2.60	1.30	—	散漫	—	—	—
85	長堀北	BB1L	VI	6号礫群	0.80	0.30	4	散漫	—	—	—
85	長堀北	BB1L	VI	7号礫群	0.20	0.10	2	集中	—	—	—
85	長堀北	BB1L	VI	8号礫群	0.60	0.30	3	散漫	—	—	—

旧石器時代研究プロジェクトチーム

遺跡 No.	遺跡名	確認 層位	文化 層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状況	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
85	長堀北	BB1L	VI	9号礫群	1.20	0.30	3	散漫	—	—	—
85	長堀北	BB1L	VI	10号礫群	1.30	0.90	7	散漫	—	—	—
85	長堀北	BB1L	VI	11号礫群	0.30	0.30	3	集中	—	—	—
85	長堀北	BB1L	VI	12号礫群	3.70	1.50	9	散漫	—	—	—
85	長堀北	BB1L	VI	13号礫群	0.50	0.10	2	散漫	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	1号礫群	2.50	1.60	—	集中	—	—	14礫群と接合
86	下鶴間長堀	BB1L	III	2号礫群	6.20	3.50	—	集中	—	—	周囲は散漫 10、11礫群と接合
86	下鶴間長堀	BB1L	III	3号礫群	1.70	0.80	—	散漫	—	—	14礫群と接合
86	下鶴間長堀	BB1L	III	4号礫群	0.80	0.50	—	密集	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	5号礫群	0.50	0.30	—	散漫	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	6号礫群	1.90	0.50	—	散漫	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	7号礫群	2.60	2.20	13	散漫	—	—	18礫群と接合
86	下鶴間長堀	BB1L	III	8号礫群	2.20	0.60	—	散漫	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	9号礫群	1.30	0.50	—	散漫	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	10号礫群	2.70	2.30	—	集中	—	—	2号礫群と接合
86	下鶴間長堀	BB1L	III	11号礫群	2.10	1.50	—	集中	—	—	2号礫群と接合
86	下鶴間長堀	BB1L	III	12号礫群	2.50	1.30	—	集中	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	13号礫群	1.50	0.60	—	集中	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	14号礫群	3.50	3.00	86	集中	—	—	1、3、26礫群と接合
86	下鶴間長堀	BB1L	III	15号礫群	0.70	0.50	—	—	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	16号礫群	2.00	0.60	7	散漫	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	17号礫群	3.00	1.70	176	集中	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	18号礫群	2.00	1.20	—	散漫	—	—	7、25礫群と接合
86	下鶴間長堀	BB1L	III	19号礫群	1.80	0.60	—	集中	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	20号礫群	1.80	0.80	—	散漫	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	21号礫群	0.90	0.50	18	集中	赤化：2、完形： 10・破損：8	—	26礫群と接合
86	下鶴間長堀	BB1L	III	22号礫群	0.80	0.60	—	—	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	23号礫群	5.00	4.00	—	散漫	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	24号礫群	3.50	1.50	26	散漫	—	—	—
86	下鶴間長堀	BB1L	III	25号礫群	5.20	4.00	—	散漫	—	—	18礫群と接合
86	下鶴間長堀	BB1L	III	26号礫群	2.30	1.80	—	集中	—	—	14、21礫群と接合
86	下鶴間長堀	L2M	IV	礫群	5.00	5.00	39	散漫	—	—	—
87	長堀南	L2UU	IV	1号礫群	1.70	0.90	10	密集	赤化：10、スス： 3、完形：3	礫岩1、砂岩4、安山岩 2、閃緑岩1	2ユニット直下
87	長堀南	L2UU	IV	2号礫群	1.10	0.60	13	集中	赤化：13、スス： 4、タール：2	礫岩2、砂岩6	2ユニット直下
87	長堀南	L2UU	IV	3号礫群	0.40	0.40	14	密集	赤化：14、スス： 5、タール：1、 完形：3	礫岩2、砂岩5、安山岩 2、火砕岩1	—
87	長堀南	L2UU	IV	4号礫群	2.90	2.00	19	集中	赤化：19、スス： 7、完形：7	礫岩3、砂岩5、安山岩 8、ホルンフェルス1	—
87	長堀南	L2UU	IV	5号礫群	1.10	0.70	11	集中	赤化：11、スス： 5、タール：1、 完形：4	礫岩2、砂岩4、安山岩 1、火砕岩1	—
87	長堀南	L2UU	IV	6号礫群	0.70	0.40	17	密集	赤化：17、スス： 8、タール：1、 完形：6	砂岩6、安山岩3、閃緑岩 1、礫岩2	—
87	長堀南	L2UU	IV	7号礫群	1.00	0.50	28	密集	赤化：28、スス： 9、タール：3、 完形：11	安山岩7、礫岩4、砂岩 6、閃緑岩1	9ユニット直下
87	長堀南	L2UU	IV	8号礫群	2.10	0.80	14	密集	赤化：14、スス： 5、タール：2、 完形：7	礫岩2、砂岩4、チャート 1、安山岩5、閃緑岩1、 ホルンフェルス1	—
87	長堀南	L2UU	IV	9号礫群	2.10	1.40	15	集中	赤化：15、スス： 3、タール：1、 完形：5	礫岩2、砂岩4、チャート 1、安山岩1、火砕岩1	8ユニット直下
87	長堀南	L2UU	IV	10号礫群	2.40	1.80	40	集中	赤化：40、スス： 6、完形：6	礫岩4、砂岩6、チャート 1、安山岩1、閃緑岩1	8ユニット直下
87	長堀南	L2UU	IV	11号礫群	1.80	1.30	28	集中	赤化：26、スス： 18、タール：2、 完形：17	砂岩11、泥岩3、安山岩 8、閃緑岩1、火砕岩1、 その他2	8ユニット直下
87	長堀南	L2UU	IV	12号礫群	2.90	1.40	27	集中	赤化：27、スス： 3、タール：2、 完形：4	礫岩1、砂岩6、泥岩2、 安山岩5、ホルンフェルス 1	—
87	長堀南	L2UU	IV	13号礫群	1.30	0.40	28	密集	赤化：28、スス： 3、完形：9	礫岩2、砂岩9、安山岩 6、火砕岩2	—
87	長堀南	L2UU	IV	14号礫群	1.10	1.00	11	集中	赤化：11、スス： 1、完形：2	礫岩1、砂岩2、安山岩 2、火砕岩1、その他1	—
87	長堀南	L2UU	IV	15号礫群	1.50	1.20	20	集中	赤化：19、スス： 4、完形：13	礫岩2、砂岩10、チャート 1、安山岩5、閃緑岩2	—

神奈川県における旧石器時代の遺構（その3）

遺跡 No.	遺跡名	確認 層位	文化 層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
87	長堀南	L2UU	IV	16号礫群	0.70	0.50	10	集中	赤化：10、スス：6、タール：4、完形：7	礫岩3、砂岩1、安山岩3、閃緑岩1、ホルンフェルス1、その他1	11ユニット直下
87	長堀南	L2UU	IV	17号礫群	2.90	2.30	67	密集	赤化：66、スス：7、タール：1、完形：7	礫岩2、砂岩19、チャート2、安山岩19、ホルンフェルス1	—
87	長堀南	L2UU	IV	18号礫群	1.60	1.50	47	集中	赤化：47、スス：10、タール：3、完形：6	礫岩3、砂岩7、泥岩1、安山岩18、閃緑岩1、ホルンフェルス2	12ユニット直下
87	長堀南	L2UU	IV	19号礫群	1.00	0.60	13	集中	赤化：13、スス：9、タール：3、完形：6	礫岩1、砂岩4、安山岩6、閃緑岩1、その他1	—
87	長堀南	L2UU	IV	20号礫群	2.00	0.90	60	集中	赤化：60、スス：9、完形：4	礫岩2、砂岩11、安山岩19	14ユニット直下
87	長堀南	L2UU	IV	21号礫群	0.70	0.50	10	集中	赤化：10、完形：—	砂岩1、安山岩5	15ユニット直下
87	長堀南	L2UU	IV	22号礫群	2.30	1.60	27	散漫	赤化：27、スス：—	砂岩1、チャート1、安山岩—	15ユニット直下
87	長堀南	L2UU	IV	23号礫群	0.90	0.50	20	密集	赤化：20、スス：16、タール：4、完形：9	礫岩1、砂岩5、安山岩8、火砕岩2	—
87	長堀南	L2M	V	1号礫群	0.70	0.30	18	集中	赤化：18、スス：15、タール：8、完形：12	砂岩7、チャート1、安山岩3、閃緑岩2、火砕岩3	1ユニット直下
88	深見諏訪山	BB1L	IV	9号礫群	2.20	2.00	34	散漫	—	—	—
88	深見諏訪山	BB1L	IV	15号礫群	1.30	0.70	8	散漫	—	—	—
92	上草柳	BB1M	I	a 礫群	0.60	0.50	19	集中	—	—	—
92	上草柳	BB1M	I	b、c 礫群	4.20	2.30	33	散漫	—	—	—
101	吉岡B区	BB1L	IV	礫群1	5	2	81	集中	完形：2、半欠：2、赤化：65、スス：65、タール：65、赤化のみ：5、付着物のみ：8	安山岩4、細粒凝灰岩29、中粒凝灰岩41、細粒斑レイ岩3、砂岩4	石器集中1と重なる接合適合
107	今田	BB1L or L2UU	III	1号礫群	1.10	1.10	81	密集	—	砂岩39、閃緑岩13、ホルンフェルス5、火砕岩4、チャート3、凝灰岩3、安山岩3、礫岩3、その他4	いずれの礫群も規模は小さいが出土点数は多く、分布密度は高い また、2基検出されているユニットとは分布は重ならない
107	今田	BB1L or L2UU	III	2号礫群	1.10	0.80	40	密集	—	砂岩20、閃緑岩5、火砕岩3、安山岩2、ホルンフェルス1、チャート1、その他4	
107	今田	BB1L or L2UU	III	3号礫群	0.80	0.60	61	密集	—	砂岩28、閃緑岩5、ホルンフェルス4、火砕岩6、チャート3、凝灰岩2、安山岩1、礫岩3、その他4	
107	今田	BB1L or L2UU	III	4号礫群	0.60	0.50	28	密集	—	砂岩10、火砕岩5、安山岩2、閃緑岩1、その他4	
118	慶應SFC	BB1M -L2M	III	第8調査区 第1礫集中部	0.30	0.24	4	密集	赤化	安山岩4	集中部以外の礫4点を含め、計8点の接合が確認。長さ13cmの完形各礫となる周囲に5点の礫
118	慶應SFC	BB1M -L2M	III	第8調査区 第2礫集中部	3.04	1.16	15	やや密集	赤化：12、完形：2・破砕：13	硬砂岩14、安山岩1	接合はいずれも近距離の資料同士
118	慶應SFC	BB1M -L2M	III	第8調査区 第3礫集中部	1.40	1.28	4	散漫	赤化：3、完形：3・破砕：2	ホルンフェルス1、砂岩3	接合は集中部内1例
118	慶應SFC	BB1M -L2M	III	第8調査区 第4礫集中部	3.00	1.80	37	密集	赤化：31、完形：17・破砕：20	細粒凝灰岩11、硬砂岩9、砂岩8、安山岩7、頁岩1、不明1	接合は集中部内で6例確認 接合状態は3/4以上の遺存率
118	慶應SFC	BB1M -L2M	III	第8調査区 第5礫集中部	1.08	0.48	5	やや密集	赤化：3、完形：4	砂岩2、硬砂岩1、安山岩1、細粒凝灰岩1	接合は第7礫集中部との間で1例 距離5.2m
118	慶應SFC	BB1M -L2M	III	第8調査区 第6礫集中部	0.80	0.58	4	やや密集	赤化：4、完形：4	安山岩1、砂岩1、硬砂岩1、細粒凝灰岩1	—
118	慶應SFC	BB1M -L2M	III	第8調査区 第7礫集中部	0.74	0.68	3	散漫	完形：1・破砕：2	砂岩2、安山岩1	接合は集中部内で1例、第5礫集中部との間で1例確認 第5礫集中部との距離5.2m 第9石器集中部が共伴(RF)
120	川尻	BB1U	IV	1号礫群	2.40	2.00	35	集中	赤化：35、スス：23、タール：23、完形：3・破損：32	砂岩24、頁岩6、凝灰質砂岩4、凝灰質泥岩1	第1ブロックと重複
120	川尻	BB1U	IV	2号礫群	3.80	2.50	38	集中	赤化：38、スス：6、タール：6、完形：5・破損：33	砂岩13、頁岩11、凝灰質砂岩13、ホルンフェルス1	第7ブロックと重複

旧石器時代研究プロジェクトチーム

遺跡 No.	遺跡名	確認 層位	文化 層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共存遺物等)
127	宮ヶ瀬上原 (No.13)	BB1M -L	V	P 1号礫群	1.00	1.00	10	散漫	赤化：10、スス：2、タール：2、完形：1、剥落：2	硬質砂岩	炭化物はカラマツ属 or トウヒ属 19,470±100y. B. P (AMS法)
127	宮ヶ瀬上原 (No.13)	BB1M -L	V	P 2号礫群	3.00	1.00	29	集中	赤化：23、スス：20、タール：20、完形：1・ヒビ：2、剥落：4	粗粒凝灰岩 6、硬質砂岩 3、中粒凝灰岩 2、硬質中粒凝灰岩 1	—
127	宮ヶ瀬上原 (No.13)	BB1M -L	V	P 3号礫群	1.50	1.50	17	散漫	赤化：14、スス：8、タール：8、完形 3、ヒビ：7	安山岩 5、硬質砂岩 3、中粒凝灰岩 2、硬質細粒凝灰岩 1、硬質中粒凝灰岩 1	—
127	宮ヶ瀬上原 (No.13)	BB1M -L	V	P 4号礫群	3.00	2.50	16	散漫	赤化：11、スス：6、タール：6、完形：1、ヒビ：8	軟質細粒凝灰岩 3、硬質砂岩 2、粗粒凝灰岩 1、中粒凝灰岩 1、砂岩 1	—
127	宮ヶ瀬上原 (No.13)	BB1M -L	V	P 5号礫群	1.30	1.30	6	散漫	赤化：6、完形：2、ヒビ：3	流紋岩質凝灰岩 1、安山岩 1、礫岩 1、中粒凝灰岩 1、硬質砂岩 1	炭化物は径0.7mの 範囲に集中
127	宮ヶ瀬上原 (No.13)	BB1M -L	V	P 6号礫群	2.50	1.50	13	散漫	赤化：8、スス：6、タール：6、完形：1、ヒビ：4	粗粒凝灰岩 5、硬質砂岩 4、安山岩 2、中粒凝灰岩 1、礫岩 1	—
127	宮ヶ瀬上原 (No.13)	BB1M -L	V	P 7号礫群	1.50	1.50	7	散漫	赤化：6、完形：1、ヒビ：2	中粒凝灰岩 2、流紋岩質凝灰岩 1、火山礫凝灰岩 1、石英閃緑岩 1、安山岩 1	—
127	宮ヶ瀬上原 (No.13)	BB1M -L	V	P 8号礫群	1.00	0.30	3	散漫	赤化：4、スス：1、タール：1、完形：1、ヒビ：2	粗粒凝灰岩 2、流紋岩質凝灰岩 1、中粒凝灰岩 1、火山礫凝灰岩 1	—
127	宮ヶ瀬上原 (No.13)	BB1M -L	V	P 9号礫群	1.60	—	5	直線	赤化：3、スス：2、タール：2、完形：2、剥落：3、ヒビ：3	硬質砂岩 1、軟質細粒凝灰岩 1	—
171	原口	BB1L 相当	I	1号礫群	0.55	0.30	4	散漫	赤化：4、破砕：4	—	剥片石器 1
171	原口	BB1L 相当	I	2号礫群	0.70	0.45	11	集中	赤化：11、破砕：8	—	剥片石器 1
171	原口	BB1L 相当	I	3号礫群	1.00	0.80	17	密集	破砕：14、赤化	—	剥片石器 7
171	原口	BB1L 相当	I	4号礫群	2.80	0.80	34	集中	赤化、破砕あり	—	剥片石器 14
183	月見野Ⅲ A	BB1	—	礫群	—	—	—	—	—	—	B 1 上層、下層、L 2 層から 6 基検出
183	月見野Ⅲ B	BB1	—	礫群	—	—	—	—	—	—	B 1 中層から 3 基検出
185	県営 高座渋谷団地内	BB1LL	IV	1号礫群	2.40	1.60	66	集中	赤化、破損顕著	—	周辺部は散漫
185	県営 高座渋谷団地内	BB1LL	IV	2号礫群	2.40	2.40	52	集中	—	—	周辺部は散漫
185	県営 高座渋谷団地内	BB1LL	IV	3号礫群	2.00	1.10	9	散漫	赤化：9、破損：9	—	—
185	県営 高座渋谷団地内	BB1LL	IV	4号礫群	3.20	0.30	3	散漫	全点赤化、破損	—	—
186	上草柳第 4 地点	BB1M	I (a)	礫群	3.30	3.30	75	散漫	25個体、赤化、スス	—	—
187	月見野 I	BB1L	—	礫群	—	—	—	—	—	—	2 基検出
188	月見野 II	BB1	—	9号礫群	0.70	0.50	—	集中	—	—	—
188	月見野 II	BB1	—	10号礫群	1.40	1.20	—	集中	—	—	—
188	月見野 II	BB1	—	11号礫群	1.20	0.50	—	集中	—	—	—
188	月見野 II	BB1	—	12号礫群	1.70	1.20	—	集中	—	—	—
188	月見野 II	BB1	—	13号礫群	1.00	0.80	54	集中	—	—	—
188	月見野 II	BB1	—	14号礫群	1.80	1.20	57	集中	—	—	—
188	月見野 II	BB1	—	15号礫群	1.20	0.80	132	密集	—	—	—
216	下森鹿島	BB1L	III	1号礫群	0.50	0.30	23	密集	赤化：23、スス：6、タール：1、完形：9・破損：14	砂岩 3、チャート 4、閃緑岩 3、安山岩 3、泥岩 1、その他 1	3号礫群と接合
216	下森鹿島	BB1L	III	2号礫群	0.80	0.60	29	密集	赤化：29、スス：20、完形：11・破損：18	砂岩 9、凝灰岩 1、火砕岩 2、閃緑岩 3、安山岩 7、泥岩 1、その他 4	—
216	下森鹿島	BB1L	III	3号礫群	2.00	1.60	42	集中	赤化：45、スス：5、完形：15・破損：27	砂岩 12、チャート 3、火砕岩 2、閃緑岩 4、安山岩 4、礫岩 2、その他 5	1号礫群と接合
216	下森鹿島	BB1L	III	4号礫群	0.50	0.50	35	密集	赤化：35、スス：9、タール：1、完形：16・破損：19	砂岩 21、チャート 1、凝灰岩 1、火砕岩 4、閃緑岩 1、安山岩 3、泥岩 1、その他 2	10号礫群と接合

神奈川県における旧石器時代の遺構（その3）

遺跡 No.	遺跡名	確認 層位	文化 層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状況	礫群石材組成	備考 (共存遺物等)
216	下森鹿島	BB1L	III	5号礫群	1.00	0.70	48	密集	赤化：49、スス：25、タール：2、完形：31・破損：17	砂岩9、チャート4、凝灰岩3、火砕岩7、閃緑岩4、安山岩10、泥岩5、礫岩1、その他5	—
216	下森鹿島	BB1L	III	6号礫群	2.60	1.90	214	密集	赤化：210、スス：37、タール：1、完形：65・破損：149	砂岩58、チャート11、凝灰岩12、火砕岩8、閃緑岩17、安山岩37、泥岩4、礫岩4、その他10	—
216	下森鹿島	BB1L	III	7号礫群	1.40	0.60	44	密集	赤化：44、スス：15、完形：27・破損：17	砂岩11、凝灰岩1、火砕岩4、閃緑岩5、安山岩13、泥岩2、礫岩2、その他4	—
216	下森鹿島	BB1L	III	8号礫群	1.80	0.40	11	集中	赤化：11、スス：1、タール：3、破損：11	砂岩2、凝灰岩1、火砕岩3、安山岩3、その他1	9号礫群と接合
216	下森鹿島	BB1L	III	9号礫群	1.80	0.70	9	散漫	赤化：9、破損：—	安山岩4、泥岩1、その他—	8号礫群と接合
216	下森鹿島	BB1L	III	10号礫群	0.80	0.60	24	密集	赤化：24、スス：3、破損：24	砂岩2、凝灰岩1、火砕岩1、閃緑岩6、安山岩6、泥岩1、その他1	4号礫群と接合
217	田名塩田原	BB1U -M	II	1号礫群	1.80	—	2	散漫	—	—	第2ブロックと重複
217	田名塩田原	BB1U -M	II	2号礫群	2.40	0.40	3	散漫	—	—	—
217	田名塩田原	BB1U -M	II	3号礫群	4.00	—	2	散漫	—	—	第1ブロックと重複
217	田名塩田原	BB1M	III	1号礫群	5.20	2.40	11	集中	—	—	第2ブロックと重複
217	田名塩田原	BB1M	III	2号礫群	4.20	3.00	13	集中	—	—	第1ブロックと重複
219	藤沢市Na419 第1地点	BB1	II	1号 礫集中部	2.00	1.00	3	散漫	—	凝灰岩2、頁岩1	全て別母岩
219	藤沢市Na419 第2地点	BB1L -L2	III	1号 礫集中部	5.50	4.50	65	やや散 漫	—	中粒凝灰岩108、硬質中粒凝灰岩26、砂岩53、ホルンフェルス16、火山礫凝灰岩12、安山岩/斑レイ岩7、流紋岩1、閃緑岩/硬質砂岩18、礫岩2、チャート/粘板岩1	スクレイパー1、二次加工剥片1、使用剥片2、ハンマーストーン1、剥片6、砕片3が共存
219	藤沢市Na419 第2地点	BB1L -L2	III	2号 礫集中部	5.70	4.00	204	やや密 集	—	中粒凝灰岩108、硬質中粒凝灰岩26、砂岩53、ホルンフェルス16、火山礫凝灰岩12、安山岩/斑レイ岩7、流紋岩1、閃緑岩/硬質砂岩18、礫岩2、チャート/粘板岩1	二次加工剥片1、石核1、剥片1が共存
219	藤沢市Na419 第5地点	BB1L -L2	II	1号 礫集中部	5.00	2.50	43	やや密 集	—	中粒凝灰岩14、硬質中粒凝灰岩13、閃緑岩5、火山礫凝灰岩4、硬質砂岩3、ホルンフェルス2、安山岩1、チャート1	石核3、剥片1が共存
228	相模野Na35	L1S -BB2U	—	礫群	—	—	—	—	—	—	崖面観察で4基確認
231	相模野Na61	L2	—	礫群	—	—	—	—	—	—	崖面観察で2基確認
239	大塚東	II -III	—	3号集石	1.00	0.40	10	散漫	赤化	シルト岩	ナイフ形石器2、加工痕のある剥片5、使用痕のある剥片2、剥片9、石核1
279	相模野Na72	L2	—	礫群	—	—	—	—	—	—	崖面観察で1基確認
323	神明若宮A地区	L2U	III	1号礫群	2.40	1.60	70	集中	赤化：11、完形：11、破損：69	—	—
323	神明若宮A地区	L2U	III	2号礫群	0.80	0.80	23	集中	赤化：14、完形：14、破損：9	—	3号礫群と接合
323	神明若宮A地区	L2U	III	3号礫群	1.20	0.60	15	散漫	赤化：4、完形：4、破損：11	—	2号礫群と接合
323	神明若宮A地区	L2U	III	4号礫群	0.60	0.10	2	散漫	赤化：2、破損：2	—	—
323	神明若宮C地区	BB1L	II	1号礫群	0.30	0.10	2	散漫	赤化：2、破損：2	—	—
325	月見野上野 第5地点	BB1L	IV	1号礫群	3.60	1.20	6	散漫	—	—	—
325	月見野上野 第5地点	BB1L	IV	2号礫群	2.50	1.00	3	散漫	—	—	—
329	大和市Na202	BB1U	II	1号礫群	1.20	0.95	29	集中	赤化：29、ヒビ：29、スス：29	中粒凝灰岩13、細粒凝灰岩5、砂岩4、輝緑岩2、安山岩2、斑レイ岩1、流紋岩1、流紋岩質凝灰岩1、アブライト1	石材構成は境川中島橋付近の河床礫と共通
333	大和市Na210	BB1L -L2U	II	1号礫群	2.40	2.40	200	密集	赤化：33、スス：33、タール：33、完形：33	粗粒凝灰岩、火山礫凝灰岩、ホルンフェルス、斑レイ岩	大半が1m×1mに集中。第4、6号礫群と接合

遺跡 No.	遺跡名	確認 層位	文化 層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
333	大和市No210	BB1L ~L2U	II	2号礫群	2.20	0.80	51	集中	赤化：17、スス：17、タール：17、完形：17	粗粒凝灰岩、火山礫凝灰岩、砂岩	大半が1m×0.6mに集中
333	大和市No210	BB1L ~L2U	II	3号礫群	1.50	0.80	19	散漫	赤化：17、スス：17、タール：17、完形：3	凝灰岩	—
333	大和市No210	BB1L ~L2U	II	4号礫群	1.30	0.80	5	散漫	赤化：有、スス：有、タール：有、完形：1・破損：4	凝灰岩、チャート	第1、6号礫群と接合
333	大和市No210	BB1L ~L2U	II	5号礫群	0.60	0.20	3	散漫	—	凝灰岩	—
333	大和市No210	BB1L ~L2U	II	6号礫群	0.80	0.40	7	散漫	破損：7	凝灰岩	第1、4号礫群と接合
334	福田丙二ノ区	BB1L	II	1号礫群	2.50	1.50	9	散漫	赤化：9、スス：8、タール：8、完形：2・破損：6	中粒凝灰岩7、粗粒凝灰岩1、斑レイ岩1	1号ブロックと重複 2号礫群と接合関係 内側に炭化物
334	福田丙二ノ区	BB1L	II	2号礫群	4.00	2.00	207	密集	赤化：203、スス：203、完形：12・破損：195	中粒凝灰岩122、砂岩42、安山岩、閃緑岩、斑レイ岩、中斑レイ岩、粗粒凝灰岩、硬質細粒凝灰岩、流紋岩質凝灰岩、ホルンフェルス、チャート、頁岩	2ブロックと重複 1号・5号礫群と接合関係 集中を囲むように炭化物
334	福田丙二ノ区	BB1L	II	3号礫群	3.50	3.00	21	散漫	赤化：18、完形：1・破損：20	砂岩8、閃緑岩6、中粒凝灰岩6、流紋岩質凝灰岩1	3ブロックと重複 4・7号礫群と接合関係 広範囲に炭化物
334	福田丙二ノ区	BB1L	II	4号礫群	4.00	2.50	92	散漫	赤化：90、スス：90、タール：90、完形：6・破損：86	中粒凝灰岩30、砂岩27、粗粒凝灰岩19	9ブロックと重複 3・7号礫群と接合関係 炭化物の分布と重なる
334	福田丙二ノ区	BB1L	II	5号礫群	2.50	2.00	49	集中	赤化：49、完形：5・破損：44	中粒凝灰岩29、チャート5、砂岩4、中粒斑レイ岩4、粗粒凝灰岩、輝緑岩、閃緑岩、硬質細粒凝灰岩	10ブロックと重複 2号礫群と接合
334	福田丙二ノ区	BB1L	II	6号礫群	1.60	1.50	13	集中	赤化：13、スス：13、タール：13、完形：2・破損：11	中粒凝灰岩7、砂岩2、流紋岩1、輝緑岩、ホルンフェルス、流紋岩質凝灰岩11	11ブロックと重複
334	福田丙二ノ区	BB1L	II	7号礫群	0.80	2.20	27	散漫	赤化：27、スス・タール：27、完形：8・破損：19	中粒凝灰岩7、流紋岩質凝灰岩4、硬質細粒凝灰岩3、斑レイ岩3、砂岩3、粗粒凝灰岩2、流紋岩2、頁岩2、ホルンフェルス1	13号ブロックと重複 4号礫群と接合関係
334	福田丙二ノ区	BB1L	II	8号礫群	0.60	0.30	11	密集	赤化：11、完形：5、破損：6	中粒凝灰岩6、砂岩2、チャート1、ホルンフェル	配石の可能性あり
335	用田鳥居前	BB1L	III	第2石器集中地点	3.80	3.40	46	やや密集	赤化：46	中粒凝灰岩35、硬質細粒凝灰岩5、砂岩3、ホルンフェルス1、流紋岩1、閃緑岩1	集中約2.6m×1.6m 石核（硬質細粒凝灰岩1）、剥片（硬質細粒凝灰岩4、黒曜石1）が共伴
337	大塚戸	LIHL ~BB1L	II	1号礫群	3.60	1.20	6	散漫	—	—	—
337	大塚戸	BB1	II	2号礫群	1.80	0.40	3	散漫	—	—	—

第2表 炉址

遺跡 No.	遺跡名	確認 層位	文化 層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	掘込み の有無	礫数 分布	礫の状態	石材組成	備考
126	宮ヶ瀬中原 (No13c)	BB1M ~L	V	P1号炉址	0.65	0.55	無	31	完形：8、赤化：25、剥落：3、ヒビ：20、スス：1、タール：5	軟質細粒凝灰岩：5、中粒凝灰岩：1、粗粒凝灰岩：1、火山礫凝灰岩：3、斑レイ岩：1、硬質砂岩：4、硬質中粒凝灰岩：1	叩石：1、剥片：3、砕片：1含む 18920±100y. B. P. (AMS法)
127	宮ヶ瀬上原 (No13)	BB1M ~L	V	P1号炉址	0.75	0.65	無	—	炭化物分布：中央部(0.3×0.4m)多量 カラマツ属orトウヒ属19240±100y. B. P. (AMS法)	ナイフ形石器1	
127	宮ヶ瀬上原 (No13)	BB1M ~L	V	P2号炉址	0.75	0.60	無	5	完形：3、赤化：4、剥落：2、ヒビ：2	中粒凝灰岩：3、硬質砂岩：1、斑レイ岩：1	炭化物分布：全面 掻器伴う
127	宮ヶ瀬上原 (No13)	BB1M ~L	V	P3号炉址	0.30	0.25	無	10	完形：2、赤化：4、剥落：1、ヒビ：4、スス：1、タール：1	粗粒凝灰岩：1、安山岩：1、硬質砂岩：1、火山礫凝灰岩：2	炭化物分布：全面

第3表 配石

遺跡 No.	遺跡名	確認 層位	文化 層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礎 数	分布	礎の 状態	石材組 成	備考 (共伴遺物等)
87	長堀南	L10U	IV	1号配石	1.09	0.39	3	—	—	—	台石など
126	宮ヶ瀬中原 (Na13c)	BB1M -L	V	P 1号配石	—	—	1	—	赤化	粗粒凝灰岩	1ブロック内
126	宮ヶ瀬中原 (Na13c)	BB1M -L	V	P 2号配石	—	—	1	—	赤化、スス、タール	中粒凝灰岩	1ブロック内
126	宮ヶ瀬中原 (Na13c)	BB1M -L	V	P 3号配石	0.89	—	2	—	—	硬質砂岩	2ブロック内
126	宮ヶ瀬中原 (Na13c)	BB1M -L	V	P 4号配石	0.55	—	2	—	赤化：1	中粒凝灰岩	4ブロック内
127	宮ヶ瀬上原 (Na13)	BB1M -L	V	P 1号配石	0.50	0.50	3	集中	赤化：3、ヒビ：3、スス：3、タール：3、剥落：1	粗粒凝灰岩1、軟質細粒凝灰岩1	—
127	宮ヶ瀬上原 (Na13)	BB1M -L	V	P 2号配石	0.50	—	2	—	完形：2、赤化：2、スス：1、タール：1	硬質砂岩1、硬質細粒凝灰岩1	—
127	宮ヶ瀬上原 (Na13)	BB1M -L	V	P 3号配石	0.50	—	2	—	完形：1、赤化：2、ヒビ：2	中粒凝灰岩2	—
127	宮ヶ瀬上原 (Na13)	BB1M -L	V	P 4号配石	—	—	1	—	赤化	火山礫凝灰岩	—
127	宮ヶ瀬上原 (Na13)	BB1M -L	V	P 5号配石	0.40	—	2	—	完形：1、赤化：2、ヒビ：2、剥落：1	中粒凝灰岩、安山岩	—
127	宮ヶ瀬上原 (Na13)	BB1M -L	V	P 6号配石	0.70	—	2	—	赤化：2、ヒビ：2	中粒凝灰岩、火山礫凝灰岩	—
127	宮ヶ瀬上原 (Na13)	BB1M -L	V	P 7号配石	—	—	1	—	赤化	石英閃緑岩	—
127	宮ヶ瀬上原 (Na13)	BB1M -L	V	P 8号配石	0.75	—	3	—	赤化：3、ヒビ：2、剥落：3	中粒凝灰岩2、火山礫凝灰岩1	—
127	宮ヶ瀬上原 (Na13)	BB1M -L	V	P 9号配石	0.25	—	2	—	赤化：2、ヒビ：2	安山岩	—
127	宮ヶ瀬上原 (Na13)	BB1M -L	V	P 10号配石	2.00	2.00	5	集中	完形：1、赤化：5、ヒビ：5、剥落：1	中粒凝灰岩2、安山岩2、硬質砂岩1	—
127	宮ヶ瀬上原 (Na13)	BB1M -L	V	P 11号配石	0.35	—	2	—	赤化：2、ヒビ：1、スス：1、タール：1	硬質砂岩1、安山岩1	—
127	宮ヶ瀬上原 (Na13)	BB1M -L	V	P 12号配石	—	—	1	—	完形	安山岩	—
128	宮ヶ瀬 サザランケ (Na12)	BB1M -L	V	P 2号配石	0.39	—	2	—	完形：1、赤化：2、ヒビ：2、タール：2	火山礫凝灰岩	—

第4表 デボ（石核原材集積）

遺跡 No.	遺跡名	確認 層位	文化 層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	遺物 数	分布	遺物の 様相	石材組 成	備考
128	宮ヶ瀬サザランケ (Na12)	BB1L -L2U	V	石核原材 集積	0.20	0.20	2	密着	2点の遺物が密着して出土	硬質細粒凝灰岩	周囲に遺物見られない

第5表 炭化物集中

遺跡 No.	遺跡名	確認 層位	文化 層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	備考（共伴遺物等）				
10	橋本	—	III	炭化物片集中ヶ所9	—	—	記述及び明確な図無し、詳細不明				
118	慶徳SFC	L1H -BB1	III	第8調査区第1炭化物	1.36	0.94	分布の中心はBB1				
118	慶徳SFC	BD0 -L2	III	第8調査区第2炭化物	1.40	1.26	分布の中心はBB1				
118	慶徳SFC	BB1	III	第8調査区第3炭化	1.92	1.80	—				
192	草柳1丁目	BB1M	—	1号炭化物集中	1.50	1.20	—				
219	藤沢市Na419 第2地点	B31L -L2	III	1号炭化物集中部	1.50	1.20	炭化物は径2～5mm程度 分布は比較的多量				
335	用田鳥居前	B31L	IV	第3石器集中地点内	4.60	2.90	石器集中地点内に、2箇所の炭化物集中が認められる 石器の出土状況は、この2箇所の炭化物集中を取り囲むような状況で出土している				
335	用田鳥居前	B31L	IV	大型炭化材集中部	1.30	1.30	5箇所の集中部が検出されている 板状の炭化材が直立した状態で出土した第2集中部の下部からは、直径28cm・深さ42cmを測るビットが検出されている また、周辺からは6667点におよぶ炭化物粒も出土しており、炭化物粒を含めた分布範囲は約6.7m×4.7mとなる				
335	葛原滝谷	B31L	IV	第1大型炭化材集中部	1.22	0.65	炭化材(計6点)は比較的小型であり、横たわった状態で出土				
335	葛原滝谷	B31L	IV	第2大型炭化材集中部	0.78	0.42	炭化材(計6点)は横たわった状態で出土 この内の1点は、最大長26.5cm・最大幅12.0cm・最大厚5.6cmを測る大型のもの また、下部からはP1号土坑が検出されている				
335	葛原滝谷	B31L	IV	第3大型炭化材集中	1.50	0.36	計3点出土した炭化材のうち、2点はほぼ直立した状態で出土				

第6表 礫群（補遺編）

遺跡 No.	遺跡名	確認 層位	文化 層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 (接合後数)	分布	礫の 状態	礫群石 材組成	備考 (共伴遺物等)
157	古淵B	L1HL- BB1M	2 a	1号礫群	3.20	2.30	64		赤化：64、破損：32	チャート4、安山岩21、 砂岩39、	5号ユニット重複
157	古淵B	L1HL- BB1M	2 a	2号礫群	3.50	1.20	50		赤化：47、スス：43、ター ル：6、破損：28	チャート2、安山岩21、 砂岩26、頁岩1	
157	古淵B	L1HM- BB1U	2 a	11号礫群	2.90	2.20	51		赤化：50、スス：28、ター ル：3、破損：20	チャート6、安山岩7、 砂岩37	10号aユニット重複
157	古淵B	L1HL	2 a	12号礫群	2.10	1.90	49	密集	赤化：40、スス：22、ター ル：7、破損：27	チャート9、安山岩10、 砂岩30	10号bユニット重複
157	古淵B	BB1U- L2U	2 a	16号礫群	3.20	3.10	36		赤化：29、スス：21、ター ル：7、破損：34	チャート2、安山岩1、 砂岩33	38号ユニット重複
157	古淵B	BB1U	2 a	18号礫群	4.80	4.10	16	散漫	赤化：16、スス：6、ター ル：1、破損：12	チャート1、安山岩1、 砂岩13、頁岩1	3号a・bユニット 重複
157	古淵B	L1HL~ BB1M	2 a	23号礫群	4.80	4.10	48	散漫	赤化：37、スス：21、ター ル：3、破損：15	チャート2、安山岩8、 砂岩38	12号ユニット重複
157	古淵B	BB1U	2 a	24号礫群	3.20	3.00	10		赤化：9、スス：6、破損： 3	チャート2、安山岩2、 砂岩6	
157	古淵B	BB1U	2 a	25号礫群	3.10	2.00	24	散漫	赤化：22、スス：5、ター ル：1、破損：20	チャート2、安山岩6、 砂岩16	
157	古淵B	BB1M	2 a	27号礫群	4.30	2.60	45		赤化：43、スス：40、ター ル：1、破損：34	チャート1、安山岩2、 砂岩40、凝灰岩2	11号ユニット重複

参考・引用文献

- 金山喜昭・土井永好・武藤康弘 1984.8「第Ⅲ文化層」『橋本遺跡先土器時代編』相模原市橋本遺跡調査会 pp.18-19
 中村喜代重 1979.11「神奈川県相模原市下九沢山谷遺跡の石器群」『神奈川考古』7 神奈川考古同人会 pp.89-116
 鈴木次郎 1986.7「第Ⅴ章第2節B地区」『田名稲荷山遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告12 神奈川県立埋蔵文化財センター pp.29-44
 長沢邦夫・中三川 昇他 1987.3「第Ⅴ文化層（C地区）」『中村遺跡』中村遺跡発掘調査団 pp.163-302
 長沢邦夫・中三川 昇他 1987.3「第Ⅴ文化層（D～F地区）」『中村遺跡』中村遺跡発掘調査団 pp.303-390
 鈴木次郎 1984.3「第Ⅴ章第6節第Ⅴ文化層」『栗原中丸遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告3 神奈川県立埋蔵文化財センター pp.87-292
 高杉博章 1991.10「第Ⅳ章第2節（2）第Ⅳ文化層」『神奈川県大和市下鶴間甲一号遺跡発掘調査報告書』下鶴間甲一号遺跡調査団 pp.167-198
 明治大学考古学研究室月見野遺跡調査団 1969『概報 月見野遺跡群』
 相模野考古学研究会 1971.9「先土器時代遺跡分布調査報告書相模野編」相模野考古学研究会
 相田 薫 1988.3「第4章第3節第Ⅲ文化層」『月見野遺跡群上野遺跡第三地点』神奈川県大和市文化財調査報告書第27集 大和市教育委員会 pp.50-57
 小池 聡 1991.3「第5章第5節第Ⅴ文化層」『長堀北遺跡』大和市文化財調査報告書第39集 大和市教育委員会 p.27、pp.67-85（資料編）
 中村喜代重 1984.9「第Ⅴ章第4節第Ⅲ文化層」『下鶴間長堀遺跡』神奈川県大和市文化財調査報告書第17集 大和市教育委員会 pp.165-351
 麻生順司 1987.12「第Ⅲ章第5節第Ⅴ文化層」『長堀南遺跡発掘調査報告書』神奈川県大和市文化財調査報告書第28集 大和市教育委員会 pp.183-197
 曾根博明・堤 隆・諏訪間 順他 1983.3「第3章先土器時代」『深見諏訪山遺跡発掘調査報告書』神奈川県大和市文化財調査報告書第14集 大和市教育委員会 pp.32-98
 服部隆博・中村喜代重 1984.3「第Ⅴ章第5節第Ⅱ文化層」『上草柳第2地点遺跡』神奈川県大和市文化財調査報告書第15集 大和市教育委員会 pp.151-217
 砂田佳弘・三瓶裕司 1998.3「第Ⅰ章旧石器時代B1層」『吉岡遺跡群Ⅴ』かながわ考古学財団調査報告38（財）かながわ考古学財団 pp.6-85
 麻生順司他 1992.3「第3節第Ⅲ文化層（B1下部）」『今田遺跡』藤沢市教育委員会 pp.61-78
 吉田政行 2003.3「第Ⅴ章第4節第5項旧石器時代遺跡群Ⅳ」『吉岡遺跡群Ⅴ』かながわ考古学財団調査報告153（財）かながわ考古学財団 pp.35-119
 小林謙一・桜井準也 1992.8「第Ⅴ章第Ⅲ文化層（B1・L2）」『湘南藤沢キャンパス内遺跡』第2巻岩宿時代縄文時代Ⅰ部 慶應義塾 pp.145-232
 鈴木次郎・市川正史・三瓶裕司 1997.3「第Ⅴ章第6節第Ⅴ文化層」『宮ヶ瀬遺跡群Ⅹ中原（No13C）遺跡』かながわ考古学財団調査報告16（財）かながわ考古学財団 pp.287-356
 鈴木次郎・恩田 勇 1997.3「第Ⅴ章第7節第Ⅴ文化層」『宮ヶ瀬遺跡群ⅩⅡ上原（No13）遺跡』かながわ考古学財団調査報告18（財）かながわ考古学財団 pp.228-557
 鈴木次郎 1996.3「第Ⅴ章第6節第Ⅴ文化層」『宮ヶ瀬遺跡群Ⅵサザランケ（No12）遺跡』かながわ考古学財団調査報告8（財）かながわ考古学財団 pp.297-376
 松井 泉 1990.3「第4節第2文化層bの遺構と遺物」『神奈川県相模原市古淵B遺跡』相模原市古淵B遺跡発掘調査団 pp.159-254
 畠中俊明 2002.3「第Ⅳ章第1節旧石器時代Ⅰ文化層（B1層下部相当）の調査」『原口遺跡Ⅳ』かながわ考古学財団調査報告135（財）かながわ考古学財団 pp.25-382
 小池 聡 1995.7「第Ⅳ章第5節第Ⅳ文化層」『大和市県営高座渋谷団地内遺跡』大和市県営高座渋谷団地内遺跡発掘調査団 pp.62-84
 加藤晋平・村田良介編 1979.9「Ⅵ礫群と炭化物」『大和市草柳一丁目遺跡』草柳一丁目遺跡調査会 pp.23-27
 戸田哲也 1993.9「第Ⅲ章第3節第3文化層」『下森鹿島遺跡』下森鹿島遺跡発掘調査団 pp.127-179
 櫻井準也 1997.6「第Ⅲ章第2節第Ⅱ文化層」『藤沢市No419遺跡第1地点発掘調査報告書』東国歴史考古学研究所 pp.33-49
 櫻井準也 1999.3「第Ⅲ章第3節第Ⅲ文化層」『藤沢市No419遺跡第2地点発掘調査報告書』東国歴史考古学研究所 pp.37-57
 櫻井準也 1999.2「第Ⅳ章第1節旧石器時代」『藤沢市No419遺跡第4・5地点発掘調査報告書』東国歴史考古学研究所 pp.26-33
 大坪宜雄・横山太郎 1991.3「第Ⅳ章調査大塚東遺跡」『大塚東遺跡・大塚西遺跡』横須賀リサーチパーク計画地内埋蔵文化財発掘調査団 pp.24-38
 小池 聡・細井佳浩 1997.3「第Ⅲ章第3節旧石器時代の調査」『神明若宮地区内遺跡』神明若宮地区内遺跡発掘調査団 pp.42-102
 小池 聡・細井佳浩 1997.3「第Ⅴ章第5節旧石器時代の調査」『神明若宮地区内遺跡』神明若宮地区内遺跡発掘調査団 pp.239-266
 小池 聡他 1993.3「第Ⅴ章第5節第Ⅳ文化層」『月見野遺跡群上野遺跡第5地点』上野遺跡第5地点発掘調査団 pp.83-90
 村澤正弘 1996.3「第5章第2節第Ⅱ文化層」『大和市No202遺跡大和市No159遺跡』大和市文化財調査報告書第63集 大和市教育委員会 pp.15-44
 小池 聡 1999.3「第Ⅲ章第3節第Ⅱ文化層」『大和市No210遺跡』大和市文化財調査報告書第71集 大和市教育委員会 pp.29-55
 峰 治・畠中俊明・井関文明 1999.12「第Ⅴ章第2節第Ⅱ文化層（B1層下部）の調査」『福田丙二ノ区遺跡』かながわ考古学財団調査報告68（財）かながわ考古学財団 pp.93-230
 栗原伸好他 2002.3「（4）第Ⅳ文化層（BB1層：ナイフ形石器／大型炭化材）」『用田鳥居前遺跡』かながわ考古学財団調査報告128（財）かながわ考古学財団 pp.340-444
 栗原伸好 2003.3「第Ⅴ章第5節（4）第Ⅳ文化層」『葛原滝谷遺跡葛原下滝谷戸遺跡』かながわ考古学財団調査報告151（財）かながわ考古学財団 pp.127-1
 小池 聡・小塚知之他 1994.3「第Ⅳ章第3節第Ⅱ文化層」『大塚戸遺跡』大和市文化財調査報告書第60集 大和市教育委員会 pp.53-65